

11月号パラパニュース

特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟

事務局：〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2-4F

電話：03-6229-5423、FAX：03-6229-5420

メール：jppf.jimu@gmail.com

ホームページ：<http://jppf.jp/>

□ アジアパラ報告

写真：日本選手団の皆様



北九州で開催されたアジアオセアニア大会の一カ月後にアジアパラがインドネシアで開催された。こちらは、日本障がい者スポーツ協会（JPC）からの派遣で、JPCの各部署の皆様には、ご尽力を頂き、大変、お世話になった。一番にJPCの皆様にお礼を申し上げたい。

パラ・パワーリフティング連盟代表選手11名、コーチ3名、トレーナー1名、の合計15名は10月5日、羽田空港よりインドネシアジャカルタに飛んだ。日本選手団一同は、笑顔の中にも緊張の面持ちを含み、元気に現地へと向かった。



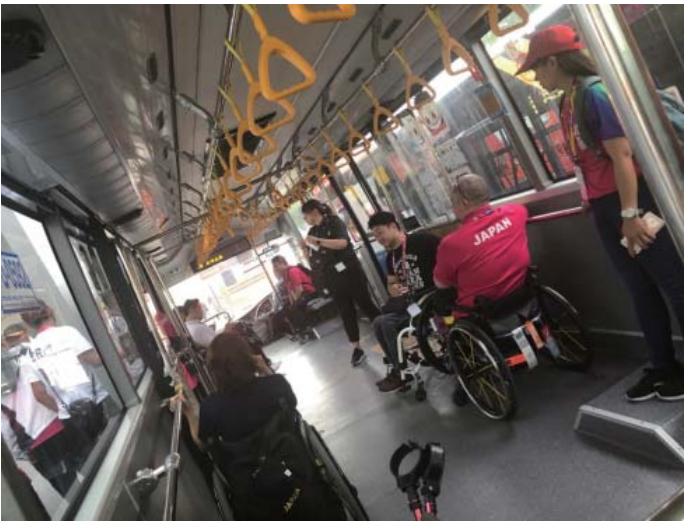
ジャカルタの空港では、アジアパラ歓迎のポスターがたくさん飾られ、ボランティアの皆さんが、飛行機を降りたところまで出迎えてくださった。

パラパワーの写真は、女子41kg級インドネシアの選手。



ジャカルタは大都会。高層ビルは東京よりはるかに多い。交通渋滞も東京の上を行っている。写真上は、選手村の夜景風景、選手村は、アジアパラの後は、マンションとして売り出されるそうだ。

写真右は、選手村の食堂。人によって、食事の反応はまちまち。インドネシア料理は辛くて駄目、インドネシアの調味料に化学調味料は皆無なので、口にあってよかった。食事の嗜好は人それぞれなので、選手達は、もし、



口に合わないときのために、日本食を用意してきた選手も多かった。

選手村から、大会会場までは、バスで一時間。バリアフリーバスが用意され、車椅子の選手も快適乗車。また、多くのボランティアの方々が、非常にきめ細かい対応をしてくださっていた。

審判として参加した私達は、選手と交わってはいけない、というIPCの方針で、別のホテル。交通渋滞の事を言えば、日曜日や、早朝はホテルから会場までは15分程度。試合が終わって、戻るときは、ちょうど夕方のラッシュと重なり、最長で1時間20分。選手のバスには、白パイが先導してくれたそうだが、私達審判のバスは、通常

運行。従って、審判員達は何が起こるか分からないので、集合時間の1時間半前にはホテルを出るようにしていた。

写真右は、日本チームミーティングの様様。アジアパラ参加組でライン連絡網を作り、密に連絡を取り合って、様々な連絡事項がいきわたるよう、岡本監督、瀬尾コーチがラインをフル活用していた。また、選手の行動予定も予定表を作り、誰が、いつ、どこで何をしているかも、しっかり把握するよう、しておられたようだ。

岡本監督を中心に、日本選手団役員の皆さん、本当にご苦労様でした。





試合会場は、巨大な結婚式場。天井からは豪華なシャンゼリアがぶら下がり、1000人は入るかと思われる広いホールに、アジアパラの会場が作られていた。全体にピンクでまとめ、青とのコントラストが綺麗だった。

また、バックボードは、LEDが使われ、日本で使ったような天井カメラは無かったが、その代わりに、巨大なクレーンの先にカメラを取り付けたものが2台稼動し、選手の登場、観客の反応、審判団の表情と、様々な映像が提供されていた。ホールが広いので、ホールの中を区切り、キットチェック、検量、ドーピング検査、役員室、事務局、アスリートラウンジなどが、一つ屋根の下に収まり、運営は大変スムーズだった。

選手の検量時間ルールが変わり、おおよそ10人のセッションでは、検量時間が40分となった。今回は、参加者の少ないクラスは無かったが、それでも、従来は、検量から試合開始まで2時間あったものが、大幅に短縮された。選手の反応を聞いてみたが、選手達は柔軟にルールに対応しており、感心する。



Rank	Name	NPC	Born	B.W.	Back	1	2	3	4	Best
2	TAMANG Durga Man	NEP	1979	69.36	14	78	74	78		
27	SUHLUL Abdulaziz	KSA	1992	71.23	16	137	143	147		143
56	ZABI Saif	UAE	1979	65.87	17	142	142	149		149
71	HIGUCHI Kentaro	JPN	1972	70.69	13	186	186	171		186
35	RAHELU Rajendrasingh	IND	1973	71.20	14	186	186	186		186
79	DONAYOROV Bahdiyev	TJK	1993	69.66	14	166	166	171		171
55	MARASRI Thongsa	THA	1975	70.77	11	176	182	213		213
112	MELADZE Sergey	TKM	1980	70.80	15	182	186	219		219
23	MOHSIN Rasool	IRQ	1987	71.32	15	213	226	225		226
58	ROSTAMI Rooallah	IRI	1989	71.42	14	209	218	225	229	218

IF SUCCESSFUL, WILL BE RANKED 2nd

World Record = 229 kg Asian Record = 229 kg Para Games Record = 197 kg



大堂選手メダル獲得、メダルまであと一步、三浦選手、西崎選手。日本選手全員入賞を果たす。

アジアパラ日本選手結果

女子	41 kg級		
	成毛美和	7位	46 kg
	67 kg級		
	森崎可林	5位	50 kg
男子	49 kg級		
	三浦浩	4位	121 kg
	54 kg級		
	西崎哲男	4位	130 kg
	59 kg級		
	戸田雄也	6位	132 kg
	72 kg級		
	樋口健太郎	5位	171 kg 日本新
	80 kg級		
	宇城元	7位	147 kg
	88 kg級		
	大堂秀樹	3位	195 kg
	97 kg級		
	馬島誠	7位	155 kg
	107 kg級		
	中辻克仁	7位	195 kg
	107 kg以上級		
	松崎泰治	6位	137 kg





スタートリストが発表され、各クラスのスタート重量を見ると、うまくするとメダルの可能性がある、と思われたクラスが3クラス。俄然、応援にも力が入る。

後日、わざわざ日本から観戦に来てくださった方の話を聞くと、スコアボードを見ながら、1kg刻みの激しい攻防に、ハラハラ、ドキドキし、思わず応援の拍手にも力が入り、非常に試合が楽しめた、と言っておられた。

日本選手達の記録向上への努力と成果が、観客として来て下さる方々の心をつかみ始めている。



パラパワーリフティングは、スコアボードを見ながら、それぞれの選手が何kgを選び、どんな思いで挑戦し、そして、結果が出てくるのか、と言うところが何にもまして面白い。そして、成功した選手、失敗した選手の表情が大きなスクリーンに映し出され、選手の悔しさや喜びを観客として共有できるところが魅力といえると思う。

そのために、戦いの模様をスコアボードでいかに表現するか、審判の判定をいかに理解するか、こういうところに、試合作りの工夫がまだまだ出来そうだ。





メダルを獲得した大堂選手。早速 J P C に報告に行く。パラパワーリフティング初のメダルに J P C にも喜んでいただいた。このクラス、中国、そして、今回欠場のヨルダンの選手を除き、カザフ、ウズベク、インドネシアそして日本の大堂選手の 4 選手が、毎回激しいメダル争いをしている。つい、一ヶ月前のアジアオセアニアでは、大堂選手がカザフの選手を破って 3 位、カザフ 4 位、インドネシア 5 位。今回のアジパラでは、カザフの選手が 2 位を獲得。そして、大堂選手が 3 位。4 位ウズベク、5 位インドネシアと続いた。しかも記録は 1 k g ずつの違い。



コーチとしては、これら海外の選手の戦いぶりと同国の選手の実力を頭に入れて、どのような重量選択をしたら良いか、責任重大。岡本監督の采配に拍手。見ている側は、最後の 195 k g を大堂選手が失敗すれば 5 位、成功すれば銅メダル、本当にハラハラした試合展開で、パラ・パワーリフティングの魅力を堪能した戦いであった。

パラ・パワーリフティング「ゲーム」が面白かった。





海外選手の戦いぶり、その気合、選手は無論、コーチの緊張、その時々張り詰めた空気が伝わってくる。写真下は、中国勢。なんと、参加選手全員が金メダル獲得！世界新記録も多数！！正確な試技、コントロールとスピード挙上の絶妙なテクニック、学ぶところ多々。





競技開始の1時間前から、音楽、ダンス、生演奏、と様々な演出があり、観客を飽きさせない工夫が凝らされていた。(写真左上)

非常に多くのボランティアが、選手、役員のサポートをし、大会の運営を手伝ってくださっていた。(写真左中)

インドネシアの大統領が観戦に来られ、女子73kg、79kg級の試合を観戦。ニクラスとともにインドネシアが銀メダルを獲得し、非常に喜んでおられた。(写真左下)



観客として、毎回学校の生徒さん達が来られ、客席を満杯にそして、力強い応援を繰り広げていた。(写真下)



写真右は、「バンドウの試合に出ていたのです」と、吉田進を訪ねて来られた方。試合と言うのは、健常者のアジア選手権の事で、1984年、インドネシアバンドウで初めてアジア選手権が開催された試合。この試合には日本からも長くJPAを支えて来られた中尾さんや丸本さん達が参加され、1988年高松で開催された第二回アジア選手権に繋がる。35年も前の話だが、アジアパラで再会できた喜びと歳月を振り返るひと時となった。

